

世界の中の日本・日本人



新型 CORONA に席卷された 2020 年。「日本は、世界に冠たる公衆衛生力の高さでその禍を極力抑えてきたのでは」。佐賀医大の青木教授の話を通じて伺い考えさせられることも…。日本人だからこそ、身に付けさせなければならない力は何だろう？と考えていた最中、ある文章に出会い、尚一層その想いを強くしましたので紹介しましょう。

伝統・文化の継承

京都文化の特徴は、ファジー、未完の美、精神性の追求、持続する知恵である。(中略)

ファジーの代表格が、日本建築にみられる「縁側」。縁側を内と外が通い合う「間の構造」と呼ぶ。また、日本庭園の滝は「水を使うときは必ず地形を造り、水は上から下へ流れる。自然をゆがめることなく美しい世界を創る」。一方、西洋庭園の噴水は「人間が自然を支配するという考えのもとで都市を造ってきたため、自然の理に反して下から上。人間の力を誇示している」のだとか。

さらに、人間と自然の境目が無い日本の精神性は、人間だけではなく、動植物、岩石まであらゆるものに等しく命が宿るという。人間だけが特別の物ではなく、自然の一部。それ故、日本人は、筆や櫛、針にまで命を見だし供養を行う。(後略)

さて、そう考えると、日本人の心持ちもまた、世界に冠たるものではないかと思う次第。先日、5年生の道徳の授業をさせていただく機会がありました。テーマは、「寛容の心」。今の日本には、「許さない」「許せない」という空気が満ちています。例えば、SNS の炎上。自分が直接、見たり聞いたりしているわけでもないのに、単なる噂で、人を追い込んだり、傷つけたり、バカにしたり…。その結果、かけがえのない命まで落とすことさえ起こっています。しかし、授業後の子供達のコメントを読み、救われた思いがしました。「罪を憎んで 人を憎まず」という諺がありますが、子供達の書いてくれた文章の中には、正に、そのような内容が沢山書かれていたのです。私たち大人は、子供のこの純粹さに学ぶ謙虚さをもつ必要があるのかも知れません。

CORONA に起因するいじめもそう。自戒を込めて、今こそ大人達が日本人の持ち味、「寛容の心」を発揮する時ではないのでしょうか…。

心揺さぶる人権集会！

今年の人権集会は、放送で…。やはりそうせざるを得ないか…と思う反面、どうやったら、より良いものになるのだろう！ そんなことを思いながら 12 月 1 日(火)からの人権週間を迎えました。係からの提案では、集会までに、道徳の授業やソーシャルスキルなどの学級活動の中で、「友情・信頼」「個性の伸長」「公正・公平・社会正義」「規則の尊重」などの学びを展開して欲しいとの依頼が…。そして、11 日(金)5 校時、最後のまとめとして放送による人権集会を実施しました。

絵本『ぼくはなきました』の朗読を聞いたり、『ピリブ』『せんだんのように』を全校で合唱したりしました。絵本の意味、合唱曲の歌詞の意味が子供達の心に染み込んでいって欲しいなあ～！ そう思う一瞬が、流れていきました。



放送を行う集会委員会 朗読に見入る子供達

「我慢の年・・・！」

残念なお知らせをしなければなりません。例年、3 学期に行われている、PTA 主催の「愛校バザー」。PTA 評議員会の議題として検討され、中止の決定がなされました。その理由としては以下の通りです。

○子供達はもちろん、保護者や地域の方だけではなく、不特定多数の人が集まること。

○会場内は、興奮状態になり、無意識に声が大きくなったり人と人が接近したりする事が容易に想像できること。等々。

毎年、協力して頂いている地域の皆様、楽しみにしておられたであろう皆様、本当に申し訳ありません。楽しみは 1 年後に。ピンチをチャンスに変える考え方お待ち頂ければ幸いです。



